

令和 8 年度

一般選抜 C 日程

国語

出題意図

I	武井彩佳『歴史修正主義』（中公新書）第 6 章を素材とした。本問は、論理的文章の読解力を測ることを意図して出題した。 特に、問五、六、九は論の根拠が把握できているかを問う問題である。また、問三、四と一二は、それぞれ比喩的なレトリックや指示内容の理解を問うものである。 最後の問九は、設問を正確に読みとり、内容と合致しないものを選択する能力を問うための出題である。
II	室田武『マイナス成長の経済学』（農山漁村文化協会）の一部を素材とした。本問は、環境と経済の循環という多角的な視点を持つ論説文を精読し、科学的な具体例と筆者の主張の論理的つながりを正確に読み取る能力を判定することを意図して出題した。 問一は、語彙の正確な知識と、文脈に即して適切な語を選択できる基礎的な言語能力を判定するための問題である。問二～五は、傍線部の表現が指し示す具体的な内容や、論理的な帰結としての理由を本文からの確に抽出・整理し、筆者の論証プロセスを正しく理解できているかを問う。また、問六、問九は、文章の構成や接続関係を考慮し、前後の文脈から不足している情報を推論して適切な語句を補完できる、一貫した論理的読解力を判定するものである。さらに、本文で提示された対照的な概念を整理し、文章全体の要旨や筆者の最終的な提言を客観的に把握する能力を問うための問題として問七、問八を出題した。
III	養老孟子『人生の壁』（新潮文庫・新潮社）を素材とした。 本問は、漢字や語句の理解力、正確な内容読解力などの言語能力を問うことを意図して出題した。問一、問六は指示する内容が正確に理解できているかどうかを問う問題である。問二は漢字知識を、問八は文脈に即した語句の意味を問う問題である。問三、問四、問五、問七は筆者の意図・思考を正確に理解できているかどうかを問う問題である。問九、問一〇は内容理解が適切であるかどうかを問う問題である。